

# 一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2017年8月）議事録

日時：2017年8月25日（金）午後5時30分～7時45分

場所：AP品川 9階 N+Oルーム

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登、西平賀昭、永富良一、碓井外幸、  
勝村俊仁、甲斐裕子、栗原 敏、後藤勝正、  
坂本静男、須田和裕、竹森 重、武政 徹、  
田中喜代次、成田和穂、能勢 博、  
宮地元彦（各理事）、  
小林康孝、定本朋子（各監事）、  
尾形直則（第72回大会長代理・愛媛）、  
山次俊介（第73回大会長代理・福井）

欠席者：大野 誠、小野寺昇、川原 貴、下光輝一、  
田畑 泉、内藤久士、西牟田守、浜岡隆文、  
山内秀樹（各理事）、  
井上 茂、清田 寛（各監事）

## 【審議事項】

### 1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

前回の理事会議事録を理事会開催中に内容確認を行い、訂正等がある場合には申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認することにした。

### 2. 平成29年度庶務報告に関する件について（武政総務委員長）

2017年7月31日現在、会員総数4,308名、新入会員343名、退会者397名（内自然退会227名）、購読団体数は149団体であることが報告された。また、2年以上会費未納者リストが提示され、2年以上会費未納者については第72回愛媛大会を期限として、自然退会とすることが承認された。尚、自然退会者の中に、今年度名誉会員に推薦された方が含まれている。第72回愛媛大会を期限とし、2年間の会費2万円を支払う様、武政総務委員長から勧告し、支払われたことの確認後9月16日の社員総会に於いて名誉会員に推薦することになった。

総務委員長より、2年以上（2万円）の会費未納者への会費納入督促の連絡について、従来3回目の年会費請求書発送の際に、督促状を添えていたが、今後は自然退会対象者に対して別途メール配信にすることが提案され、郵送で送った場合との費用を比較し、検討することとした。

### 3. 平成29年度会計報告（決算）に関する件について（勝村財務委員長）

資料に基づき、平成29年度決算（暫定版）について報告がなされた。

収入の部 予算に比べて会費収入が約179万円、大会開催収入が約151万円、称号費収入が約34万円、研修会収入が約49万円、広告収入が約8万円増収した結果、年度内収入は別途積立金取り崩し収入を含めて93,024,337円であった。

支出の部 予算に比べて大会開催費が約50万円と予算を上回るも、全体の支出としてはは

ぼ予算額通りで、年度内支出としては、83,252,061円であった。

本決算については公認会計士のチェックと監事の監査が行われる事が併せて報告された。

### 4. 平成29年度事業報告に関する件について（武政総務委員長）

資料に基づき、平成29年度事業報告について報告があった。審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

### 5. 学会費値上げと非有職者大会参加補助制度の提案（後藤理事）

資料に基づき、学会年会費値上げと非有職者大会参加補助制度について以下のように提案された。

①学会年会費を1,000円値上げする

②学会費の値上げに合わせて、大学院生など非有職者を対象に大会参加補助制度などを実施する

審議の結果、理事長より、後述する「平成30年度予算見直しについて」の中で報告する事業見直し案により削減が見込めるので、上記①会費の値上げは行わない事が決定した。②については、今後適切な委員会を設立して議論していくこととした。

### 6. 体力医学会地方会5ヶ年間の参加者推移および補助金見直しについて（武政総務委員長）

武政総務委員長より、資料⑥を用い、1回当たりの地方会出席者数は7地方会間に大きな差異がないことが報告された。しかし、関東地方会の補助金額が最も高い。これは、会員への連絡がハガキおよび封書に依存していた時代に決定された金額である。関東地方会は年3回行われ、会員数が最も多く、郵送料が多く掛かるので補助金額も多かった。しかし、現在はメールで一斉送信できるので全ての地方会一律年間200,000円でいいのではないかと、という提案がなされた。関東地方会代表幹事の竹森理事にも了承して頂いたため、7地方会一律200,000円で合計1,400,000円補助することに決定した。

### 7. 平成30年度予算見直しについて（鈴木理事長）

資料に基づき、平成30年度予算についての見直し案が出され、以下1)～5)の事業見直し案が理事会で承認された。

鈴木理事長より、2017年8月5日に“予算見直し委員会”を開催し、その際提案された“予算削減案”について、資料⑦を用いた報告後、審議され、下記全ての削減事項が承認された。

#### 1) 会員名簿

会員名簿を2年毎、4年毎更新または廃止案の3案が提示され、審議の結果、4年毎に更新することに決定した。その結果、サーバー保守料420,000円/年+名簿作成費年間積立金約500,000円（≒387,342円=名簿作成費1,549,368円/4年）=920,000円計上することになった。

## 2) 地方会費

7 地方会一律 200,000 円 (7×200,000=1,400,000 円)  
にする案が提出され、決定した。

## 3) プロジェクト研究費

2019 年度以降 3,000,000 円の削減となる。

## 4) 学会大会補助金

2020 年 (平成 32 年度鹿児島大会) より補助金額  
2,000,000 円となり、1,000,000 円の削減となる。

## 5) 学会誌発行費

編集委員会から提出された「編集経費の見込み」  
(平成 29 年 7 月 26 日後藤勝正編集副委員長提出) に  
基づいて説明された。平成 29 年度 (2017 年度) 予算  
案では 27,000,000 円計上されていたが、雑誌の紙質  
を下げるなどによって決算見込み額が 22,683,000 円  
に削減され、4,317,000 円 (=27,000,000-22,683,000)  
削減となった。さらに、編集委員会からの提案によ  
る掲載料の変更およびカラーページの値上げ等が、  
2017 年の社員総会において承認され、総会以後に投  
稿された論文に適用した場合の費用を鶴岡印刷所に  
試算して貰った。その結果、平成 30 年度学会誌発行  
予算は 20,500,000 円と見積もられた。この金額を平  
成 30 年度学会誌発行予算額に変更する案が提案さ  
れ、理事会において承認された。

以上の結果から、上記全ての削減案が施行される平  
成 32 年度 (平成 31 年 8 月 1 日～平成 32 年 7 月 31 日)  
以降の削減額合計は 13,030,000 円となる。さらに、平  
成 29 年度会費納入率 0.85 で計算しているが、平成 27  
～29 年度納入率は 90% である。したがって、会員数  
4,273 人×10,000 円×0.85=36,320,500 円より 2,136,500 円  
(38,457,000-36,320,500) の増収が見込まれる。その  
結果、平成 32 年度 (平成 31 年 8 月 1 日～平成 32 年 7  
月 31 日) は財政的に 15,166,500 円 (=13,030,000 円  
+2,136,500 円) 余裕ができる計算となる、との報告が  
なされた。

### <能勢理事からの質問>

只今の理事長からの予算削減提案は、すべて学会の  
事業縮小案ばかりで、「体力医学会を盛り上げる」よ  
うな将来展望が見えてこない。すなわち、予算縮小に  
よって、学会サービスが低下すると、学会員の減少が  
加速する危険性があることを、議論されたか。学会は、  
会員に「夢」を提供することもサービスの一つで、実際、  
学会 HP 上の理事長挨拶文に述べられている内容は主  
に「体力医学会の歴史」であり、「学会の理念」など  
は述べられていない、との指摘があった。

これに対して、理事長より、次のような回答があった。

### <鈴木理事長の回答>

能勢先生は理事会に時々しか出席されず、出席され  
た時は理想的な事ばかり言われる。学会を預かる理事  
長としては財政基盤を安定させることを第一に考えて  
いる。平成 26 年度以降赤字が続く、別途積立預金を毎  
年 10,000,000 円近く取り崩して不足分を補充して来て  
おり、昨年度～今年度に掛けて各種委員会了解の上、  
必須事業のみを精選し、予算削減を実行してきた。「学  
会の理念」が不明瞭であるとの指摘であるが、「理念」  
つまり根本的な考え方は体力医学会定款や理事長挨拶  
文に記述されている。

### <碓井常務理事のコメント>

今までの体力医学会の事業は、会員数 5,000 人以上  
で、会費収入が多い時代に設立された事業である。4,200  
人程度に減少した現在、事業規模を縮小し、財政基盤  
を安定させた後に、新規事業導入を考えるのは当然の  
道筋である、とのコメントがあった。

### <坂本理事のコメント>

プログラム委員会から、学会大会においてシンポジ  
ウムを計画しているの、その予算を計上して貰えない  
か、と鈴木理事長に依頼したが、「シンポジウムを  
立案した委員会がスポンサー等を探して行ってくださ  
い」と言われた。学会補助金を 300 万円から 200 万円に  
削減するらしいが、削減せず、シンポジウム等に使える  
ようにして頂きたい旨、コメントされた。

### <鈴木理事長の回答>

学会大会開催事務局より、シンポジウムの立案・企  
画を依頼された場合の費用は大会事務局が負担し、学  
会本部の各種委員会が立案・企画した場合のシンポジ  
ウム等の費用はその委員会が準備するのが従来からの  
慣習である。そうでないと、複数の委員会からシンポ  
ジウム企画に伴う予算請求があった場合、個々に対応  
していたのでは財政的困窮に陥ってしまうからである。  
日本体力医学会にとって必須のシンポジウムである  
場合には、理事会に諮って、予算計上の承認を得な  
ければならない旨、回答された。

## 8. 平成 30 年度会計報告 (予算) に関する件について (勝村財務委員長)

資料に基づき、予算について説明がなされた。平成  
30 年度予算見直しを受けて、9 月の理事会時に改めて  
予算を提出する事とした。

鈴木理事長より提案された資料⑦の提案事項 1)～  
5) まで理事会で承認されたので、「別途積立預金」を  
取り崩す必要がなくなり、これに基づいて「平成 30  
年度予算案」を組み直し、9 月 15 日の理事会に提出す  
ることになった。

## 9. 評議員推薦に関する件 (鈴木理事長)

資料に基づき、評議員選考委員会において申請者 28  
名に対しての審査を行い、候補者全員が評議員選考条  
件を満たした旨の報告があり、2017 年度評議員候補者  
として 28 名 (内、女性 3 名) を評議員に推薦するこ  
とが承認された。

## 10. 日本体力医学会健康科学アドバイザー®継続申請者 について (碓井称号委員長)

日本体力医学会健康科学アドバイザー®継続申請者  
11 名の氏名リストが掲示され、承認された (内、終身  
称号者は 5 名)。

## 11. 中富健康科学振興賞の推薦者について (武政総務委員長)

武政総務委員長より公益財団法人中富健康科学振興  
財団より中富健康科学振興賞の推薦依頼が届いた旨、  
報告があり、その場で資料 (番号無) が配布された。  
中富健康科学振興賞「候補者推薦に関する申し合わせ

事項」を鑑み、理事12期、その他各種委員会委員長および第68回日本体力医学会大会長歴任など体力医学会への貢献度が抜群であることに基づき、慈恵会医科大学理事長栗原敏理事を推薦したい旨、提案され、満場一致で承認された。

## 12. 第28回スポーツ医学研修会修了試験結果について (碓井称号委員長)

研修会を受講した参加者の内10名が8月6日に修了試験(試験問題50問)を受け、全員が合格した旨と試験の概要について報告がなされ、承認された。

## 13. その他(鈴木理事長)

鈴木理事長より、次の3点が提案された。

- 1) 現在の各種委員会委員長は次期各種委員会委員長への“申し送り事項”を事務局に提出して頂きたい旨、依頼された。
- 2) スポーツ医学研修会の見直し: スポーツ医学研修会は今年で第28回を終了した。年々参加者が減少して来ている。研修会内容も初期の研修会開催目的から少々偏移してしまっている。一方、“日本体力医学会健康科学アドバイザー”と概ね同じ時期に、同じ主旨で設立された“健康運動指導士”や“健康運動実践指導者”は現在2万人程度養成されている。しかし、健康運動指導士講習会では、“運動処方”に必須の“最大酸素摂取量”の実測または“最大酸素摂取量推定簡便法”などの実習は行われていない。日本人の健康・体力維持増進に直接関わる運動指導者が、運動処方において最も重要な要素である“運動強度”の最も信頼が於ける指標“最大酸素摂取量”の実測または“最大酸素摂取量推定簡便法”などを経験していないということは、“質の高い運動指導者”養成という点では望ましくない。体力医学会スポーツ医学研修会実習項目の中に、“最大酸素摂取量”の実測または“最大酸素摂取量推定簡便法”などの実習が組み込まれている。そこで、日本体力医学会健康科学アドバイザー取得者が健康運動指導士養成講習会を受講する場合、取得単位の削減や資格更新時の実習として体力医学会スポーツ医学研修会の受講を進めて頂きたい旨、提案された。その他に、臨床系学会に、スポーツ医学研修会案内などを紹介し、運動指導の実践において重要な運動処方、メディカルチェックなどを通して運動指導者養成に貢献できるよう、新たな体制で臨みたい旨、強調された。
- 3) 現在、各種委員会が16程ある。この中には、有名無実の委員会もあるので、次期新体制では整理・統合をはかりたい旨、提案された。

### 【報告事項】

#### 1. 各種委員会報告

- 1) 編集委員会(田中委員長、後藤副委員長)  
資料に基づき、以下の報告がなされた。
  - (1) 平成29年に編集委員会が行った事業活動について報告された。
  - (2) JPFISMを国際オープンアクセスジャーナルとして発展させ、PubMed収録を目指すために、

JPFISM誌としての独自のwebsiteを作成するため、J-STAGEセミナー「オープンアクセスジャーナルに求められることとは」に参加した。オープンアクセス化に向けた対応として、以下の項目について変更していく事が報告された。

- ・BOAI statementあるいはそれに準拠したオープンアクセスstatement
- ・編集委員会の英語名の名簿
- ・Licensingや著作権情報

Licensingや著作権情報に関しては、「再利用に関する権利」の表示になり、いわゆる「CCライセンス(creative commons licenses:基本6タイプ)」を採用し、最も制限的なCC BY-NC-ND(表示、非営利、改変禁止)の採用を検討している。

上記のCCライセンスでは学術利用は許諾なしにできるという表示になっており、現在の二次利用の規定では学術利用であっても使用許諾を求めているので、両者の規定が矛盾してしまい、現状の使用許諾を維持したままではCCライセンスを用いることが困難となる。そこで、二次利用の際の「学術利用」については、原則として「許諾の必要なし、かつ無料で使用可」へと変更する事が報告された。

#### 2) 学術委員会(竹森委員長)

第28回日本体力医学会スポーツ医学研修会の開催結果について報告された。

#### 3) 渉外委員会(永富委員長)

資料に基づき、以下の報告がなされた。

##### (1) ECSS-JSPFISM交流シンポジウムについて

ECSS-JSPFISM交流シンポジウム(ECSS 2016 Metropolitan Ruhr)について報告された。

座長: 永富良一(東北大学)

“Challenging Physical Inactivity in Childhood and Adolescence”

シンポジスト: 紙上敬太(早稲田大学)、

鈴木宏哉(順天堂大学)

##### (2) 第2回国際学術交流奨励賞について

今年度は16名の応募があり、渉外委員会の審査の結果、8名に国際学術交流奨励賞を授与することが報告された。

##### (3) 国内関連学術団体との交流・連携について

JPFISMに「血管病予防に関する包括的管理チャート」を掲載したことが報告された。

#### 4) 倫理委員会(成田委員長)

資料に基づき、『日本体力医学会 研究倫理審査』のホームページ掲載がされ、研究倫理審査の応募を開始したことが報告された。

#### 5) 将来構想検討委員会(能勢委員長)

資料に基づき、最近の「学会員数減少」を受け、その対策をいかに講じるべきか、を中心に将来構想検討委員会委員を対象にアンケート調査を行い、その結果が報告された。

- (1) 学会の顔であるホームページの改訂
- (2) オリンピックに関連したシンポジウムの開催
- (3) 実践者向け現場に役立つ体力医学に関する講習
- (4) 各種ガイドラインの作成



(5) 学会誌について

(6) 学会運営について

6) 広報委員会 (甲斐委員長)

将来構想検討委員会からのアンケート結果を踏まえ、ホームページの現状を維持しつつも、引き続き委員会の中でホームページ改定案を議論していくことが報告された。

2. 理事選挙の結果及び役員選挙の進捗状況

(須田選挙管理委員長)

資料に基づき、役員選挙結果について理事長に鈴木政登現理事長、副理事長に西平賀昭現副理事長と永富良一現副理事長、常務理事に碓井外幸現常務理事が当選されたことが報告された。また、副理事長については第1副理事長に投票数の多かった西平賀昭現副理事長、第2副理事長に永富良一現副理事長が選出されたことを新理事会で提案する予定である、ことが報告された。

3. 第72回(愛媛)大会の進捗状況

(尾形第72回大会長代理)

配布資料に基づき、大会の特別講演等準備状況について報告された。

会場：愛媛大学城北キャンパス、  
松山大学文京キャンパス

会期：2017年9月16日(土)～18日(月)

テーマ：愛顔つなぐ体力医学

4. 第73回(福井)大会の進捗状況

(山次第73回大会長代理)

配布資料に基づき、大会会場の変更等準備状況について報告された。

会場：AOSSA, ハピリン

会期：2018年9月7日(金)～9日(日)

テーマ：しあわせ元気なふくいでつむぐ体力医学  
～QOL維持・向上の運動効果～

5. 第74回(茨城)大会の進捗状況(田中第74回大会長)  
大会の準備状況等について報告された。

会場：つくば国際会議場

会期：2019年9月19日(木)～21日(土)

6. その他(鈴木理事長)

1) 永富渉外委員長に代わり鈴木理事長より、第18回日本抗加齢医学会総会「シンポジウム⑤骨格筋を中心とした臓器・組織の連関について」の共催依頼があったことが紹介され、審議の結果、了承された。

2) 田中編集委員長より、「日本体力医学会学術刊行物『メディカルフィットネス-臨床医向けのエクササイズガイド- (仮題)』の企画(出版社, 社会保険研究所から内諾)が編集委員会と学術刊行物小委員会との共同で進められているが、学術刊行物小委員会委員長は多忙のため進行していない。編集委員会では第10版ACSM運動処方指針の翻訳者に原稿依頼も済ませ、一段落したので、編集委員会主導で進めたいが、どうか」という提案があった。出席理事の中から異論はなく、鈴木理事長より「宜しくお願ひします。」と回答された。

追記：この件に関して、後日永富学術刊行物小委員会委員長より承諾が得られた。